

月例報告書 Mai, 2025

CIEF ブルゴーニュ大学
文化政策学部 国際文化学科4年
佐藤 朱那

8ヶ月の留学生活が終わり、日本へ帰国しました。今回の留学レポートでは、フランス留学で感じたことや学んだことについて話そうと思います。

フランスに来てよかったこと

・フランス語力が伸びた

まずいちばんに良かったことは圧倒的にこれです！！来たばかりの時は呪文のように聞こえていたフランス語が、去年の10月に比べてはるかに聞き取れるようになりました。最初は簡単な言葉も出てこなくて、大学でも勉強してきたのに！と悔しくてたまりませんでした。今では自分の考えを英語以外の言葉で伝えられるようになったことがとても嬉しく、感動しています。まだまだ発展途上の私のフランス語ですが、より成長できるよう、諦めずに勉強していきたいです。

・自分の意見を伝えられるようになった

授業を受けて最初に感じたことは、日本人以外、授業中にたくさん発言しているということです。最初はみんなが意見を出してくれる、今わからないところは他の誰かもわからなくて聞いてくれるという考えで発言せずにいました。しかし、日数を重ねていくうちに、自然に自分から発言できるようになりました。日常生活でも、これまでは人の発言に違和感を感じても流していましたが、自分の意見を伝えられるようになりました。良くも悪くも周りもストレートに意見を伝えてくれるので、私自身も感じたことを伝えやすい環境に身を置くことができて良かったです。

・許容範囲が広がった

トイレが汚かったり、手続きの進みが遅すぎたり、日本にいたら耐えられないことにも耐えられるようになりました。最終的にはなんとかなるという精神で過ごしてきた8ヶ月、本当に心が広がったと（自分自身雑になったと言ったほうが正しいかもしれないです）と思います。これからはどんなことがあっても“C'est la vie”（そんなもんよね～人生）と言って乗り切られる自信があります！

フランスに留学して学んだことは、私の振る舞いが、「日本人」のイメージを上げるといことです。私は、留学を通して外国人と関わるたびに、その人の振る舞いと国籍から、〇〇の国の人は明るい、〇〇の国の人は真面目などと判断してきました。それは逆も然りで、

私の振る舞いを見て外国人は日本人のイメージを具現化します。もし私が失礼な行動を取ったり、他者をリスペクトしない発言をしたりしてしまったら、日本人を好きではなくなる人がいるかもしれません。自分の些細な行動ひとつで人の印象は大きく変わってしまうし、その人個人ではなく国としてのイメージも変わってしまうことに気づいたとき、怖いと思いました。日本に帰る前に友達と遊んだ時に、春セメスターを通して日本人にどんなイメージを持ったか聞いてみたら、礼儀正しくて謙虚と言ってもらえました。自分の中で日本人の代表として来ているという考えで常に行動していたので、周りの人に良い印象を持ってもらえたことがとても嬉しかったです。海外に行くと、楽しくなって周りが見えなくなってしまう場面があると思います。しかし、私は日本人としての誇りと責任を持って行動することが大切だと身をもって実感しました。

フランスに来なければ出会えなかった友達、先生、多くの人との出会いに感謝しています。大変なこともたくさんあったけれど、周りの人々との助け合い、励まし合いがあったからこそ、乗り越えることができました。フランスはパンが美味しくて、自由で、綺麗な建物と景色、自然がたくさんあるいい国だと気づけたと同時に、日本の良さにもたくさん気づくことができました。フランスに留学に行くなんて！！と最初は思っていたのですが、来てみればどんどん生活や文化が身に馴染んでいくもので留学前は夢の国だったフランスが、今では一番身近な外国になりました。日本との距離があまりにも遠くて簡単にいける場所ではないですが、絶対にまた戻りたいと強く思っています！

